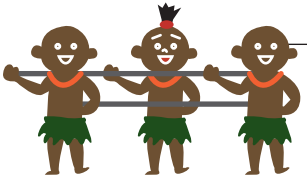
華麗なる図書館利用者のための

クールリブラー講座

Cool Librar

カジのひねもすハイスクール純情派

文／カジ



リーダーが提案したやつの図

真ん中がカジ。左右が段ボールのダミー原住民だ。イラストで見るとそれなりだが、実物は…長い人生、強引に進めなければならないこともあるので、注意が必要ぜよ。

段ボールの万能性と弱酸性の液体せっけん、両者に特に関連性はなく、たいした秘密もない。

【前回までのあらすじ】
文化祭のおもしろ劇にまさかの原住民役として参加する運びとなったカジ少年。事前練習では、美人女子ひとみ先輩にいじられながら大人の世界をちょっとだけ垣間見つつ、いよいよ文化祭当日を迎える…

当日を迎えると書いておきながら、前日の夕暮れ時の話だ。さすがに文化祭前日だけあって、授業後はそれぞれの部門で最後の準備をしている。我がボンコツ演劇集団ももちろん本番に向け最終リハーサルをしていたのな。

カジの出番は物語中盤。主人公の太郎くんが、謎の島に降り立った時に原住民と出会うというフワフワした設定の場面だ。原住民カジは太郎くんに「ウンボボウンボー」と現地の言葉をひたすら浴びせ続けるだけの簡単なお仕事。難易度はゼロに近いため、リハも1回で終了。が、次の場面に移ろうとしたときにリーダーが

「原住民1人だと寂しいから3人にしよう」

といきなりな提案をする。いやいやもうやれる人いないよ～という声が漏れ聞こえる中、宣ふリーダー。

「じゃあ段ボールの原住民を2人作って、カジくん1人で3人分演じてよ」

土壇場でなんという無茶な提案を…
すると、すぐさまひとみ先輩が

「でも本番明日だよ！」

と制す。おぉナイス援護！なんやかんやいじられたけど、こういう時は助けてくれるんだぁ～と思ったら

「急いで作らなきゃ！」

やる方向なんか～い！
というわけで、早速ひとみ先輩と二人で原住民作りに取り掛かる。段ボールの原住民を長い棒でつなぎ、カジがそれを持つことで3人っぽく見せるというのがリーダーの構想だ。この際細かい部分は無視。ある程度ヒトの形をした茶色いものができればOKというユルユルな目標のもと、一心不乱に作業すること40分。できた、できたぞ！茶色い何かが！

ご意見・ご感想はこちらへ
coollibrar@hotmail.co.jp